

筑豊小児科医会会報

Vol. 228 2026. I



Contents

- ✧ トピックス
- ✧ 研修医のご紹介
- ✧ 小児科関連勉強会のご案内
- ✧ 飯塚病院 月間診療のまとめ《2025年10月》
- ✧ AI-CAP 通信
- ✧ Pediatrics note (小児科 診療部長 大矢崇志)

トピックス

小児科 部長 岡松 由記

拝啓 師走の候、皆様におかれましては益々ご清栄のことと拝察申し上げます。

平素より当院の医療活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2025年は、前年のマイコプラスマ感染症流行に続き、本年は百日咳の流行対応に尽力いたしました。今後も地域における小児医療体制の更なる充実と質の向上を目指して、スタッフ一同研鑽を重ねてまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

寒冷の折、どうぞご自愛のうえ、健やかに新年をお迎えくださいますよう心よりお祈り申し上げます。

小児外科 部長 近藤 琢也

寒さ厳しき折、皆様におかれましては益々ご健勝のこと、お喜び申し上げます。

飯塚病院に赴任してまもなく1年が経過します。小児外科医師の交替に伴う周りへの迷惑をかけないよう精進して参りました。おかげさまで、大きな事故なくここまで来ることができました。これもひとえに皆様のご協力あってのものでございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、2026年は午（馬）年です。筑豊地区の小児患者の皆様に、質の高い医療を提供できるよう、馬車馬のように、働いて働いて働いて働いて参ります。もちろん、皆様の時間外労働を強要するものではございません！個人的な決意です。

今後とも、飯塚病院小児外科をどうぞよろしくお願ひいたします。

研修医のご紹介

●総合診療科 専攻医 1年目 森永 敏文

はじめまして。飯塚・穎田総合診療専門研修プログラム1年次の森永敏文です。福岡県出身、山口大学を卒業し昨年度まで広島県呉市で初期研修を行ってまいりました。

この度2025年4月から、ここ飯塚の地で研修させていただいております。親戚内で兄弟・従姉妹を含めて一番年上ということもあります。これまでの人生で年下と過ごした時間が多かったなと感じております。お子様がお困りのことはもちろん、御家族様の不安事にも寄り添うことができるよう努める次第です。年度末まで何卒よろしく御願い申し上げます。

●初期研修医 1年目 古賀 聖晴

初期研修医1年目の古賀聖晴と申します。出身は久留米で、出身大学は九州大学です。12月8日から4週間小児科で研修させていただいております。小児の診療は大人と異なることが多い、毎日が学びの連続です。

子どもと親御さんとのコミュニケーションを大切にし、患者さん、ご家族に寄り添った医療を提供することができるよう日々精進致します。短い期間ですがご指導のほどよろしくお願ひいたします。

小児科関連勉強会のご案内

■第372回 筑豊小児科医会勉強会

●日 時：2026年2月5日（木）18:30～19:30

●会 場：飯塚病院 教育研修棟4階 424セミナー室

ガイドラインを踏まえた便秘診療 「小児慢性機能性便秘症診療ガイドライン 2025年版」の紹介

久留米大学医学部 小児科学講座 教授 牛島 高介 先生

*ガイドライン本を実際に手に取りながら、便秘診療での重要なポイントをわかりやすく説明、解説していただきます。

*参加ご希望の方は案内状をご確認の上、1月7日（水）までにお申し込みください。

■小児等在宅医療限定職種研修会

●日 時：2026年2月12日（木）18:30～20:00

●会 場：のがみプレジデントホテル

飯塚病院 月間診療のまとめ 《2025年10月》

●入院患者数 134人 ●外来患者数 986人 ●救命救急センター受診者数 47人

●新生児センター入院患者数 14人 ●分娩件数 26件 ●手術件数 9件

●主要疾患数（退院患者数：120人）

肺炎・気管支炎	19	痙攣及びてんかん	17	低出生体重児	9
急性胃腸炎	7	喘息	5	急性上気道感染症	4
新生児呼吸障害・心血管障害	2	髄膜炎	1	腸重積・腸閉塞	1
高ビリルビン血症及び黄疸	1	その他	53		

●紹介件数（五十音順）

小児科：143件		小児外科：27件	
ひこばえ子どもクリニック	12	飯塚市役所 こども家庭課 母子保健係	8
こどもクリニックもりた		雪竹医院	4
松尾ファミリークリニック	6	ひこばえ子どもクリニック	2
まつなり医院		松尾ファミリークリニック	
あらきこどもファミリークリニック		有松産科婦人科ユースクリニック	
いいづかこども診療所		石原小児科クリニック	
穎田病院	5	糸田町立緑ヶ丘病院	1
嘉麻赤十字病院		大任町役場 住民課 衛生係	
雪竹医院		大野小児科内科	他6件



新年明けましておめでとうございます。

近年、子どもたちの間で薬物の過量服薬（オーバードーズ）が問題になっています。当院にも昨年、数名の子どもたちが救急搬送されてきました。救急病院という性質上、意識が回復し、身体への合併症がなければ、早期に退院となってしまいます。精神科への受診を勧めたり、必要に応じて紹介状を作成したりすることはできますが、十分な心理的ケアを行うことはできません。そんな短い関わりではありますが、子どもたちの背景には、いくつかの共通点があることがわかります。例えば、学校や家庭内での孤立、友人関係、学業や進路についての悩みなどです。また、多くの子が不登校で、自宅で過ごしていました。

外来で不登校の子どもたちの診察をしていますが、子どもたちは学校を休んでいても、心も身体も全く休んでいないように見えます。「明日は学校に行くよ」と約束をしても、翌朝起きたら学校に行けない——そうした日々を繰り返しています。「学校に行かなければならない」という気持ちが、休んでもチクチクと自分を傷つけ続けます。そんな気持ちを紛らわしてくれるのは、ゲームや動画、漫画やアニメなどです。それぞれは文化の一翼を担うコンテンツですが、学校を休んでいる子どもたちが触れるには、後ろめたくなってしまうものばかりです。人は社会的な生き物であり、他者との相互作用が断たれた状態が続ければ、精神的に不安定になり、自己を維持できなくなってしまいます。他者あってこそ自己なのです（ネットゲームは依存性が高いことから問題になることが多いですが、他者との関わりが持てない子にとっては、必要な側面もあるのかもしれません）。

そんな子どもたちが、仮に何もすることがない、何もする気が起きない、という状態になってしまったら、どうなるでしょう。コンテンツ以外に自己を感じるための刺激を得ようとして、自己を維持するために、自分を傷つけたり、オーバードーズをしてしまったりするのかもしれません。

さて、理由はどうあれ、関わりを持った私たちができるることは何でしょう。袖触り合うも他生の縁。必要なのは高い専門性だけではなく、細くてもよいので、負担なく長く続けられる関係性だと、私は思います。

文責：AI-CAP 大矢 崇志

<AI-CAP 事務局へのお問い合わせ> TEL : 0948-88-8220 (直通) FAX : 0948-88-2806

Pediatrics note (小児科 診療部長 大矢崇志)

明けましておめでとうございます。今年は丙午（ひのえうま）の午年。丙午は火のエネルギーと馬の躍動力が重なり、非常に強い推進力を持つ年とされており、情熱的でパワフルな反面、その力をどう整え、どこに向けるかが問われる年だそうです。このコラムも情熱的に、よりパワフルにお届けします！！——と言えたらしいのですが、性（しょう）に合わないので、今年ものんびり好き勝手にお届けします。どうぞよろしくお願ひします。

さて、早速ですが、「馬が印象的な映画」と言われて、皆さんは何を思い浮かべますか。僕は断然、黒澤明監督の時代劇『隠し砦の三悪人』です（ちなみに、今回は子どもの話はしません）。映画を観ても、時間が経つとストーリーをほとんど忘れてしまう僕ですが、馬で逃げる敵を、三船敏郎が馬にまたがり、両手で刀を上段に構えたまま全速力で追いかけ、おりやあーーッ！！ズバーーーッ！と後ろから斬りつけるあの場面だけは、今でもはっきり覚えています。太い丸太のような体幹で、がっちりした体躯を持つ三船敏郎。雨が降っても、風が吹いても、たとえ槍が降っても絶対に倒れない強靭なコシのある佇まい、彼こそ本物の武士でしょう。

さて、コシといえば、うどんですね。年の暮れには年越しそば、年が明けたら「年明けうどん」です。麵といえば蕎麦だった江戸の町で、年末年始に商売が成り立たず困っているうどん屋の頼みを聞いた平賀源内が始めた風習。という話ではなく、2000年代後半に、うどん県のさぬきうどん振興協議会が、新たな麺食行事の普及を目的に始めたそうです。縁起を担いで赤い食材を添え、紅白に彩られたうどんを、1月15日（関西地方の松の内）までに食べ、1年間の幸福を祈ること。赤といえば紅生姜。紅生姜を添えたラーメンは硬めを好む福岡県人も、うどんにコシを求めないのは有名な話。学生の頃、香川でうどん屋を数軒はしごして顎が疲れて以来、僕も田川市のやわ麺を作っている製麺所を巡礼するほどには、うどんはやわ麺派です。ふわふわのやわ麺にやさしいお出汁。揚げたての天ぷらを添えて…。ああ幸せ。

とりとめもなく好き勝手なことを書きました。乱文・駄文、失礼いたしました。次回からはちゃんとします。

あらためまして、今年もどうかよろしくお願ひします。

最新の情報は飯塚病院ホームページよりご覧ください。

また、小児科・小児外科の詳しいご紹介や診療実績は「診療科のご紹介」をご覧ください。

外来担当表



小児科のご紹介



小児外科のご紹介

